

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
平成27年度 総括研究報告書

表3 日々記録調査票案（2011年度研究記録より）

患者調査票 患者イニシャル(<u>Y.M.</u>), この記録用紙のページ(<u>1</u>), 次ページ(<u>あり/なし</u>) 「遠隔診療+対面診療」群・「対面診療」群 …… ○で囲んでください 研究期間は3ヶ月です。終了の予定の日付(<u>23</u> 年 <u>9</u> 月 <u>15</u> 日)	
日時など	<u>5</u> 月 <u>8</u> 日 <u>10</u> 時 (<u>平日</u> ・休日・時間外)
診察の予定・予定外	予定内・予定外(緊急度 1、2、3、4、5)
診療形式	外来・在宅対面・遠隔
→ 往診の移動時間	移動記載票の番号()
→ 遠隔の所要時間	準備から終了までの医師拘束時間()分
診療に至る環境の障害	順調・やや不調・極めて不調
診療に要した時間	実診療時間 (<u>5</u>)分
診療開始時の患者の不安	極めて大きい・大きい・小さい・無い・不明
バイタル	体温 未測定・異常有(無) (測定値 <u> </u>)
	脈 未測定・異常有(無) (測定値 <u>94</u>)
	血圧 未測定・異常有(無) (測定値 <u>136/94</u>)
	呼吸数 未測定・異常有(無) (測定値 <u> </u>)
	SPO2 未測定・異常有(無) (測定値 <u>96</u>)
食事・経口摂取量	<u>7</u> 分・やや不足・極めて不足・不明
尿量	<u>7</u> 分・やや少ない・極めて少ない・不明
愁訴全体の様子	強いまたは多い・普通・少ない・不明
全身状態	良い・やや良い・やや悪い・悪い・極めて悪い
イベント(★)	<u>なし</u> ・あり(★の欄記載)
治療など変更(■◆)	現状通り・変更(■)・研究中止(◆)
病状の概観・タイムコース	上向き・平坦・下向き
診察終了時での不安	減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加・不明
メモ	患者や家族の不安や感謝の言葉(具体的に) <u>ありがとうございます</u>

→ ★イベントの種類は下記から選ぶ。既存の症状・病態が著しく悪化した場合も含む。また、患者の療養環境の変化も含む。
①感染など、②心臓・血管系の異常、③呼吸器系の異常、④消化器系の異常、⑤腎臓・泌尿器系の異常、⑥皮膚等の異常、⑦運動器系の異常、⑧脳・神経系の異常、⑨糖・電解質・代謝系の異常、⑩貧血など血液系の異常、⑪癌性その他の疼痛、⑫不眠や不安、その他精神的不安定、⑬PEGカテーテル、IVHカテーテル、尿カテーテル、人工肛門、その他装着デバイスのトラブル、⑭上記何れにも該当しないが明らかな心身の異常の発症もしくは増強、⑮家族やケアギバーなどの事情の変化、あるいは経済的事情の変化

★イベント種類 (複数選択可) その内容、症状や診断を簡略に記載	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ 概略:	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ 概略:
★イベント重度	軽い・中等(入院は不要)・重い(入院要)	軽い・中等(入院は不要)・重い(入院要)

→ ■変更の場合、以下から項目選択

- ①本人・家族やケアギバーに対する療養方法・負担の変更
- ②経口薬・注射薬、酸素流量、栄養食品など処方内容変更
- ③療養・治療に必要な器具類、装置類の変更
- ④訪問看護・訪問リハビリなど人的資源の投入量の変更
- ⑤医師の診療回数・往診頻度を変更

■上記の①から⑤に該当する変更内容に○印(複数選択可)	患者・家族の負担… ①増・①減 処方など…………… ②増・②減 治療機器類など… ③増・③減 訪問看護など…… ④増・④減 医師の診療回数… ⑤増・⑤減	患者・家族の負担… ①増・①減 処方など…………… ②増・②減 治療機器類など… ③増・③減 訪問看護など…… ④増・④減 医師の診療回数… ⑤増・⑤減
■その変更内容の概略		

■変更の終了予測	1週間以内、2-3週間、予測不能か悪化	1週間以内、2-3週間、予測不能か悪化
→ 変更の継続・終了	月 日の変更について、継続・終了	月 日の変更について、継続・終了
→ 変更の継続・終了	月 日の変更について、継続・終了	月 日の変更について、継続・終了
→ 変更の継続・終了	月 日の変更について、継続・終了	月 日の変更について、継続・終了

→ 何らかの理由で「研究中止」となった場合は下段の◆を記載。予定通りの研究期間を満了した場合には記載不要

◆研究中止の理由	拒否、入院・入所、看取り、それ以外の死、転居	拒否、入院・入所、看取り、それ以外の死、転居
	必須(上記コメント:)	(上記コメント:)

今後の遠隔医療の研究課題に関する研究

研究協力者 長谷川 高志
群馬大学医学部附属病院

研究要旨

本研究では在宅患者向けの遠隔診療の研究の方向付けを固めた。しかし課題が全て快活されるわけではない。むしろ調査より多くの課題が見え、次年度の研究から外れる課題と分かった。それら問題を考察して、下記課題があることがわかった。地域連携クリティカルパスとしての遠隔医療の評価、学会間連携＝遠隔医療推進スキーム構築と拡大、DtoDtoP形態の遠隔医療の研究、遠隔医療の質管理の研究、遠隔医療手法を活用した医療・保健・介護の連携による重症化予防、専門診療支援（DtoD）の新たな取り組みの評価、在宅患者向け遠隔診療の継続的データ収集と実施施設支援、遠隔医療の機能評価（質評価）の検討などの課題である。今後、本研究の遂行に加えて、本課題の検討を進める必要がある。

A. 研究目的

在宅患者への遠隔診療の臨床研究デザインのため、ニーズの高い対象、先行研究や既知事項を整理する中で、遠隔医療普及には課題が山積していることを見出した。本研究で扱わない課題について、今後の研究課題として継承するため、検討結果を残す。対象範囲は在宅患者、在宅医療、地域包括ケアに関し、今回調査で見出した事柄のみである。遠隔医療の将来課題がここに全て収まるとは考えにくいだが、課題の一端は捉えられた。

B. 研究方法

1. 検討方法

遠隔医療の今後の課題を構造的に捉える視点は整理されていない。昨年度の厚生労働科学研究^{1, 2, 3}で得た情報を出発点として、本年度の下記の各調査対象からの情報から発見的問題探索を行う。

2. 検討対象

- 1) 各種学会、懇談会関連関連
- 2) 日本遠隔医療学会の集會
- 3) 先進施設訪問
- 4) 行政訪問
- 5) 遠隔医療従事者研修
- 6) 地域訪問

（倫理面への配慮）

患者介入、個人情報取り扱いはない。

C. 研究結果・考察

検討対象毎に見出した課題を列記する。

1. 地域医療状況の把握と遠隔医療ニーズ評価（学会、懇談会関連関連①）
 - 1) 情報収集対象
医療マネジメント学会大会、診療情報管理学会総会、クラウド時代の医療ICTの在り方に関する懇談会（厚生労働省・総務省）

2) 収集情報

- ・ 地域連携クリティカルパスについて医師の卒前卒後教育やベンダー教育が期待されるが不在（医療マネジメント学会大会）
- ・ 包括ケアでも連携パスが必要（同学会）
- ・ 地域連携クリティカルパスアウトカム評価手法が未成熟（同大会）
- ・ 地域専門医配置状況データベースがあり、専門医配置不均衡による遠隔医療ニーズの分析が可能（厚生労働省/総務省懇談会ゲストプレゼンター、梶井英治自治医科大学教授）
- ・ 北海道に限れば国保データから二次診療圏間の地域連携パス（種類別）の件数を捉えられる。ただし件数は少ない。DPCでも捉えられるが、情報はやや粗くなる。（藤森研司東北大学教授、厚生労働省・総務省懇談会より派生した打ち合わせにて、総務省）

3) 獲得課題

- ・ 遠隔医療と地域連携クリティカルパスは共通問題（従事者育成等）がある。
- ・ 遠隔医療を地域連携クリティカルパスの一形態として捉えられないか？
- ・ 定量的に潜在ニーズ（地域でのパス実施件数）を捉えて、地域の遠隔医療ニーズを評価できないか？
- ・ 定量的に潜在ニーズ（地域の専門医数、その疾患の地域の患者数）を捉え、地域遠隔医療ニーズを評価できないか？
- ・ 地域連携クリティカルパスとして臨床評価できないか？
- ・ 遠隔医療の実施件数が増えれば、上記潜在ニーズ（パス実施件数、不足する専門医数）への対応件数を評価可能と

できる。単なる実施件数の多寡ではなく、地域課題の規模の把握と解決した件数での比較評価が可能になる。

2. 学会間連携＝遠隔医療推進スキーム（学会、懇談会関連関連②）

1) 情報収集対象：睡眠学会大会、眼科学会大会、日本遠隔医療学会学術大会

2) 収集情報

- ・ 睡眠時無呼吸症候群のCPAP療法への遠隔モニタリングについて、臨床学会（睡眠学会、呼吸器学会等）だけでは進めにくい状況があると考えられる。日本遠隔医療学会に推進母体を置き、臨床学会の相乗りなど、遠隔医療の「現実的な推進スキーム」作りが必要となる。そのスキームを睡眠学会大会で示した（平成28年度もアピールを繰り返す）。また日本遠隔医療学会に「睡眠遠隔医療分科会」を発足させ、睡眠学会・呼吸器学会関係者が入会・結成して、共同活動を開始した。

- ・ 精神疾患領域（精神神経学会）でも、同様のスキームが必要とされた。そこで日本遠隔医療学会に「精神科遠隔医療分科会」を結成した。平成28年度精神神経学会総会で本件をアピールする。

3) 獲得課題

- ・ 遠隔医療は遠隔医療専門家（日本遠隔医療学会）だけでも、臨床学会だけでも進められない。連携推進スキームが重要と考えられる。
- ・ 連携推進スキームが果たすべき役割や在り方の検討が必要である。

3. 地域の専門医療支援（DtoDtpスキーム）の研究（先進施設訪問関連①）

1) 情報収集対象：旭川医科大学、岩手医

- 科大学、都道府県庁医療政策・医師確保担当部署
- 2) 収集情報
- ・ DtoDtpスキームの遠隔医療実施情報（旭川医大では眼科の運用が進んでいる。岩手医大では皮膚科の取り組みが安定し始めた）
 - ・ 同診療科（医局）内の遠隔医療であり、指導関係が存在し、共通知識の上で実施している。
 - ・ 遠隔教育（認定医指導、医局内指導）の側面が小さくない。
 - ・ 異科支援の道筋が立っていない。
 - ・ 診療報酬など財源化の検討が不足
- 3) 獲得課題
- ・ 対象患者や対象疾患、実施手法の個別の明確化が必要（診療科別、疾病別）。診療上の効果（指導効果）のエビデンス収集の検討も必要である。
 - ・ 異科（現地を総合診療医等でカバー）への連携の臨床課題の基本的調査
 - ・ 異科連携では、医局・診療科・施設が異なり、負担配分などの問題があり、実施枠組み作りにも課題が多い。しかし行政（都道府県／市町村）による調整の枠組みは無い。
 - ・ そもそも医大で遠隔医療に取り組むには、現状「学長イニシアティブ」などの強力な推進力が存在する。地域で遠隔医療を推進するための「社会的条件」の検討が必要である。
4. 遠隔医療の質管理の在り方の研究（先進施設訪問関連②）
- 1) 情報収集対象：旭川医科大学、岩手医科大学
- 2) 収集情報
- ・ 遠隔医療の診療記録と病院カルテが統合が不十分（医局内記録で実施等）
 - ・ インシデント・アクシデント管理が無い（医療安全部署の関与が無い）
 - ・ 支援・被支援の双方にまたがる記録管理（質管理）が無い。
 - ・ 旭川医大、岩手医大では医局からの情報収集に限られていて、医事課からの情報収集が必要
- 3) 獲得課題
- ・ 遠隔医療の組織的な質と館線管理のスキームを考える必要がある。
5. 地域の専門医療支援（DtoDtpスキーム）の研究（遠隔医療従事者研修、地域訪問関連①）
- 1) 情報収集対象：従事者研修参加者、地域訪問先施設、文献調査
- 2) 収集情報
- ・ 域外の専門医が地域のプライマリケア医（在宅医）や地域の看護師を介して、専門診療を実施するニーズが、医療過疎地域や離島などにある。
 - ・ 実施事例は希で、臨床手法は確立していない。
 - ・ 非がんでもターミナル状態（一年生存率25%以下）があり、専門病院から地域の在宅医療にブリッジする必要がある。しかし地域医師が専門診療に躊躇することが珍しくない。扱い方を考えるべきである。
 - ・ 支援者・被支援者をつなぐメカニズムも存在しない市町村行政だけでは難しい（二次診療圏を越える調整ができない）。都道府県でもスキームが少ない（県行政レベルの課題にか不明）
- 3) 獲得課題

- ・ DtoDtoPの診療スキームの研究（対象疾病、診療科別、具体的手法）。前述の医大レベルの課題と併せた検討が必要。
- ・ 連携スキームの研究。連携コーディネータなどを医療者と行政などで考える必要がある。
- 6. 重症化予防の扱い（遠隔医療従事者研修、地域訪問関連②）
 - 1) 情報収集対象：従事者研修、施設訪問、文献調査
 - 2) 収集情報
 - ・ 在宅医療でも健康管理と指導は新たな発症や重症化予防になり、重要である。
 - ・ 地域の病院併設の老人施設などでモニタリング実施事例があり、エビデンス収集中である。
 - ・ 診療報酬と地域の保健指導で財源が異なり、連携運用が未確立。
 - ・ 医療介護の連携は進んできたが、医療と保健の連携、保健と介護の連携が、遠隔医療上は進んでいない。
 - 3) 獲得課題
 - ・ 保健指導による重症化予防のエビデンス収集（臨床エビデンス、医療費など）
 - ・ 医療・保健・介護連携のスキーム検討
- 7. 専門診療支援（DtoD）の新らたな取り組みへの評価（日本遠隔医療学会学術集会より）
 - 1) 情報収集対象：同学会学術総会、スプリングカンファレンス
 - 2) 収集情報
 - ・ 地域のプライマリケア医に皮膚科疾患、眼科疾患を「画像を送り、コンサルテーションできる」民間の試行的サービス取り組みがある^{4, 5}。
 - 3) 獲得課題
 - ・ トライアル中で課題も多いと思うが、一方で専門診療科へ少ない連携調整負担でつながる利点がある。臨床手法、連携調整などで、何が課題か、どうすべきか検討することが重要と考える。
 - ・ 前述のDtoDtoPの検討だけでは済まない問題があると思われる。
- 8. 在宅患者向け遠隔診療のフォロー
 - 1) 情報収集対象：施設調査
 - 2) 収集情報
 - ・ 在宅医療の地域施設は、多施設研究や継続的エビデンス収集の負担に耐えられない。電話等再診の実績の積み上げが重要と、本研究報告で指摘したが、現実的手法が無い。
 - ・ 実績情報の「電話等再診」フォローや、レセプト情報収集が重要となる。
 - 3) 獲得課題
 - ・ 電話等再診＋処方箋の遠隔診療の継続的データ収集研究の発足と継続的解析および実施施設への各種支援（日本遠隔医療学会等）
 - ・ レセプト情報の分析
- 9. 遠隔医療の機能評価（質評価）の検討
 - 1) 情報収集対象：日本遠隔医療学会学術総会、スプリングカンファレンス等
 - 2) 収集情報
 - ・ 様々な遠隔医療の取り組みが出現した。新聞等のメディアでの吹聴、厚生労働省以外での「ニュービジネス受賞」など一般には高評価に見えるが安全性が不明なものも存在する。
 - ・ 遠隔医療学会でさえ、各々の評価ができない。針小棒大、実は危険があるなど、リスクが高くなってきた。
 - 3) 獲得課題

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
平成27年度 総括研究報告書

- ・ 遠隔医療の何らかの機能評価を公的団
体が行うことが望ましい。
- ・ 機能評価尺度作りが必要である。

10. まとめ

下記の通りの課題を列記した。更なる
検討の上で、取り組みを考えたい。ま
た、これが全ての問題とは限らない。
社会的問題の存在を探索し続ける必要
がある。

- ① 地域連携クリティカルパスとしての遠
隔医療の評価
- ② 学会間連携＝遠隔医療推進スキーム構
築と拡大
- ③ DtoDtoP形態の遠隔医療の研究
- ④ 遠隔医療の質管理の研究
- ⑤ 遠隔医療手法を活用した医療・保健・
介護の連携による重症化予防
- ⑥ 専門診療支援（DtoD）の新らたな取り
組みの評価
- ⑦ 在宅患者向け遠隔診療の継続的データ
収集と実施施設支援
- ⑧ 遠隔医療の機能評価（質評価）の検討

D. 健康危険情報

無し

E. 研究発表

1. 論文発表

研究代表者報告に一括して報告する。

2. 学会発表

研究代表者報告に一括して報告する。

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

無し（非対象）

2. 実用新案登録

無し（非対象）

3. その他

無し（非対象）

参考文献

1. 遠隔医療の更なる普及・拡大方策の研究（H25-医療-指定-009）、研究年度平成26(2014)年度、研究代表者(所属機関)酒巻 哲夫(群馬大学)
2. 長谷川 高志, 酒巻 哲夫. 遠隔医療の更なる普及・拡大方策の研究ー平成26年度厚生労働科学研究報告ー. 日本遠隔医療学会雑誌11(1), 30-33, 2015-07
3. 長谷川 高志, 酒巻 哲夫. 遠隔医療推進策の動向. 日本遠隔医療学会雑誌11(2), 72-75, 2015-10
4. 加藤浩晃、物部真一郎、眼科専門医に簡単に相談できるサービス「メミルちゃん」の運用経験 世界初の眼科診療遠隔支援サービスを行って分かってきたこと、平成 27 年度厚生労働省事業遠隔医療従事者研修報告、日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス抄録集. p. 26, 2016-02
5. 竹村昌敏、物部真一郎、非皮膚科向けアプリ「ヒフミル」を通じて得た知見 オンライン診療に対する現在の認識、平成 27 年度厚生労働省事業 遠隔医療従事者研修報告、日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス抄録集. p. 27, 2016-02

II. 資料

資料1 研究班員

資料2 研究班活動記録（会議、学会、出張記録）

資料3 論文、講演等一覽表

資料 1 研究班員

1. 研究代表者
酒巻哲夫 群馬大学
2. 研究分担者
本多正幸 長崎大学病院
中島直樹 九州大学医学部附属病院
森田浩之 岐阜大学
斉藤勇一郎 群馬大学
郡 隆之 利根中央病院
野口貴史 東京大学医学部附属病院
3. 研究協力者（常任）
長谷川高志 群馬大学医学部附属病院（研究班事務局）
4. 研究協力者
石井安彦 北海道庁（北海道）
酒井博司 名寄市立総合病院（北海道）
吉田晃敏 旭川医科大学（北海道）
石子智士 旭川医科大学（北海道）
守屋 潔 旭川医科大学（北海道）
山口 亨 遠軽厚生病院（北海道）
野原 勝 岩手県庁（岩手県）
谷合久憲 秋田厚生連 由利組合総合病院（秋田県）
永井優子 自治医科大学（栃木県）平成28年度より研究分担者
鈴木亮二 群馬大学医学部附属病院（群馬県）
大木里美 遠隔医療をとことん考える会（埼玉県）
太田隆正 新見市医師会
清水隆明 山陽女子短期大学（広島県）
琴岡憲彦 佐賀大学（佐賀県）
吉嶺裕之 井上病院（長崎県）

資料2 研究班活動記録

- 2015年6月12日 第17回日本医療マネジメント学会学術総会（大阪府）
～13日
- 2015年7月7日 日本睡眠学会学術大会（栃木県宇都宮市）
- 2015年8月4日 岩手県庁訪問調査、岩手医科大学訪問調査（岩手県盛岡市）
- 2015年8月10日 徳之島調査（鹿児島県徳之島町）
- 2015年8月18日 遠軽厚生病院（北海道遠軽町）
2015年8月19日 旭川医科大学（北海道旭川市）
2015年8月19日 名寄市立総合病院（北海道名寄市）
- 2015年9月10日 国立保険医療科学院地域医療情報コーディネータ研修
（埼玉県志木市）
- 2015年9月17日 新見市医師会（岡山県新見市）
2015年9月18日 診療情報管理学会大会（岡山県岡山市）
- 2015年9月24日 岩手医科大学訪問調査（岩手県盛岡市）
2015年9月25日 由利本荘市訪問調査（秋田県由利本荘市）
- 2015年10月9日 日本遠隔医療学会学術大会（宮城県仙台市）
～ 10日
- 2015年10月16日 旭川医科大学（北海道旭川市）
- 2015年10月19日 奈良県庁医療政策部（奈良県奈良市）
2015年10月20日 香川県庁健康福祉部（香川県高松市）
- 2015年10月30日 研究会議（佐賀大学琴岡准教授）（東京都中央区）
- 2015年11月13日 厚生労働省事業遠隔医療従事者研修（東京都新宿区）
～15日
- 2015年11月19日 岩手県庁訪問調査、岩手医科大学訪問調査（岩手県盛岡市）
- 2015年11月27日 厚生労働省事業遠隔医療従事者研修（大阪市北区）
～29日
- 2015年12月17日 岩手医科大学訪問調査（岩手県盛岡市）
- 2015年12月20日 研究会議（患者ヒヤリング）（香川県高松市）
- 2016年1月7日 岩手医科大学訪問調査（岩手県盛岡市）

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
平成27年度 総括研究報告書

- 2016年1月8日 研究班会議（山陽女子短期大学清水専任講師）（東京都中央区）
- 2016年1月16日 班会議（患者ヒヤリング）（埼玉県本庄市）
- 2016年2月9日 北海道医師会（ヒヤリング）（北海道札幌市）
2016年2月9日 旭川医科大学（ヒヤリング）（北海道旭川市）
- 2016年2月12日 日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス2016（東京都文京区）
～13日 研究班会議
- 2016年2月18日 岩手医科大学訪問調査（岩手県盛岡市）
- 2016年2月20日 和歌山県庁（講演、ヒヤリング）（和歌山県和歌山市）
- 2016年2月23日 茨城県庁（講演、ヒヤリング）（茨城県水戸市）
- 2016年2月26日 岩手県立大船渡病院（講演、ヒヤリング）（岩手県大船渡市）
2016年2月27日 岩手県陸前高田市（講演、ヒヤリング）（岩手県陸前高田市）
- 2016年3月14日 筑紫南が丘病院（講演、ヒヤリング）（福岡県大野城市）
- 2016年3月24日 岩手医科大学訪問調査（岩手県盛岡市）

資料3 論文、講演等一覧表

1. 論文発表

- [1] 長谷川 高志, 酒巻 哲夫. 遠隔医療推進策の動向. 日本遠隔医療学会雑誌 11(2), 72-75, 2015-10
- [2] 長谷川 高志, 酒巻 哲夫. 遠隔医療の更なる普及・拡大方策の研究—平成 26 年度厚生労働科学研究報告—. 日本遠隔医療学会雑誌 11(1), 30-33, 2015-07
- [3] 長谷川高志. 厚生労働省事業遠隔医療従事者研修報告. 日本遠隔医療学会雑誌 11(1), 34-37, 2015-07
- [4] 長谷川 高志. 遠隔医療をとことん考える会、市民参加の勉強会報告. 日本遠隔医療学会雑誌 11(1), 38-40, 2015-07

2. 学会発表

- [1] 長谷川高志、酒巻哲夫. 遠隔診療の有効性・安全性の定量的評価に関する研究. 日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス抄録集. p. 38, 2016-02
- [2] 長谷川高志、酒巻哲夫. 平成 27 年度厚生労働省事業 遠隔医療従事者研修報告. 日本遠隔医療学会スプリングカンファレンス抄録集. p. 39, 2016-02
- [3] 長谷川高志、酒巻哲夫、眼科遠隔医療の今後の在り方 日本の遠隔医療の現況、日本眼科学会 119 回大会、抄録集 Page17
- [4] 長谷川 高志, 酒巻 哲夫、在宅医療の支援手段を広く知らせる取り組み 「遠隔医療従事者研修事業」の研修プログラム開発報告。日本在宅医学会大会 17 回 Page291 (2015. 04)
- [5] 長谷川高志、睡眠遠隔医療の現状と展望 日本の遠隔医療の現状と問題点、日本睡眠学会定期学術集会プログラム・抄録集 40 回 Page155 (2015. 07)

厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業
「遠隔診療の有効性・安全性の定量的評価に関する研究」
(H27-医療-指定-017)
研究班 事務局

群馬大学医学部附属病院 システム統合センター
〒371-8511 群馬県前橋市昭和町3丁目39-15
Tel: 027-220-8771 FAX: 027-220-8770

<http://plaza.umin.ac.jp/~tm-research/>
e-mail: telemed-research@umin.ac.jp

